

第99回 オーストリアとプロイセン①

1 オーストリアの台頭

- ・()年の()により神聖ローマ帝国では諸侯の主権が認められ、神聖ローマ帝国は有名無実化してドイツは分裂状態となった。
- ・()が支配する()は、もともと神聖ローマ皇帝を多く出していた大諸侯であり、他の諸侯と比べて圧倒的な実力があつた。

☆オーストリア公国 (976～1804 年帝政へ移行～1918 年共和政へ移行)

都…() ※現在もオーストリアの首都

- ・1683 年、()による第2次ウィーン包囲を撃退した。
→そのままオスマン帝国に攻め込み、1699 年、()を結んだ。
→オーストリアは()やトランシルヴァニアを獲得したが、複数の民族を抱える多民族国家(複合民族国家)となっていった。



シェーンブルン宮殿

ウィーンに建てられた、ハプスブルク家の宮殿。「美しい泉」という意味である。ヨーロッパ外交の舞台となった。



カラ=ムスタファ=パシャ

第2次ウィーン包囲を行ったオスマン帝国の宰相。佐野の大学院時代の研究は彼の外交政策についてでした。入試には出ません…。



カール6世

1714 年には、ラシュタット条約で南ネーデルラントを獲得するなど優秀な皇帝であったが、男の子が生まれなかった。

2 プロイセンの台頭

- ・1618 年、()が支配する()と、()から発展した()が合併した。

☆プロイセン公国 (1525～1701 年王政へ移行～1871 年ドイツ統一)

都…ケーニヒスベルク→() ※現在は()の首都

◆フリードリヒ1世(在位 1688～1713 年)

- ・1701 年、スペイン継承戦争の際に()へ昇格した。

◆() (軍隊王) (在位 1713～1740 年)

- ・産業を育成して富国強兵に成功し、軍隊を強化した。



プロイセンの国旗

プロイセン国旗の白と黒はサッカードイツ代表のユニフォームの色である。プロイセンのラテン語読みである「ポルシア」に関するクラブチームも多い。



現在のベルリン

写真のブランデンブルク門はベルリンのシンボル。冷戦時代はこの前にベルリンの壁が築かれていた。



フリードリヒ=ヴィルヘルム1世

フリードリヒ=ヴィルヘルム1世は、身長の高い兵士だけを集めた巨人連隊(巨人兵)を結成した。あんまり実戦には役に立たなかったらしい…。

- ・プロイセンは、（ ）と呼ばれる地主貴族を用いて全国を統治した。
→後に軍人や官僚となるものが続出し、プロイセンの絶対王政を支えた。
- ・ユンカーは（ ）により大農場で農奴を働かせ、生産した穀物を西ヨーロッパに輸出していた。
- ・1685年にフランスで（ ）された。
→亡命したユグノーを受け入れ、プロイセンの商工業が発展する要因となった。



フリードリヒ大王
若いころは、父の教育に反発し、逃げ出したこともあった。

- ◆（ ）（在位 1740～1786 年）
 - ・ユンカーと協調して官僚や法律の整備を行い、産業の育成に力を注いだ。
 - ・また信教の自由を認め、民衆の福祉向上を目標に掲げた政策を展開した。
→プロイセンはヨーロッパの強国となっていた。
 - ・啓蒙専制主義の影響で、上からの近代化を主導したため、（ ）のひとりとされる。
※「 」という言葉が有名である。

- ・また啓蒙思想家の（ ）や、音楽家の（ ）などと親交が深く芸術を保護した。
- ・ベルリン郊外のポツダムには、（ ）式の（ ）を建設した。



ヴォルテール(左)と大王

フランスの啓蒙思想家ヴォルテールは、1850 年にプロイセンを訪れた。フリードリヒ大王とは、盛んに文通をしていた。



バッハ

バッハ一族は、60 人以上の音楽家を出した、音楽一家である。聞けばわかる名曲多数。「近代音楽の父」とされる。



ポツダムのサンスーシ宮殿

1747 年に建設された。ロココ式による建築の代表である。フランス語で、「無憂」を意味する。フリードリヒ大王の墓もある。

3 オーストリア継承戦争



マリア=テレジア
美少女として知られ、当時としては珍しく恋愛結婚をした。父が死んだ時はまだ 23 歳だった。

- ・1740 年、オーストリアでカール 6 世が死去すると、王位継承法により、娘の（ ）がハプスブルク家を継いだ。
→プロイセンは、女性が家督を継承することに異議をとなえた。

- ・フリードリヒ大王は、石炭や鉄など資源が豊富な（ ）地方を、オーストリアから奪いとりたかった。
→プロイセンは、フランスとバイエルン公を誘ってオーストリアに対して戦争をしかけた。
→オーストリアはフランスと仲の悪いイギリスと組んで、これに対抗した。
※この戦争を（ ）という。
- ・1748 年、アーヘン条約で休戦し、マリア=テレジアのハプスブルク家継承と、プロイセンのシュレジエン領有が認められた。